
障害者の生涯を通じた 多様な学習活動の充実について

令和3年7月

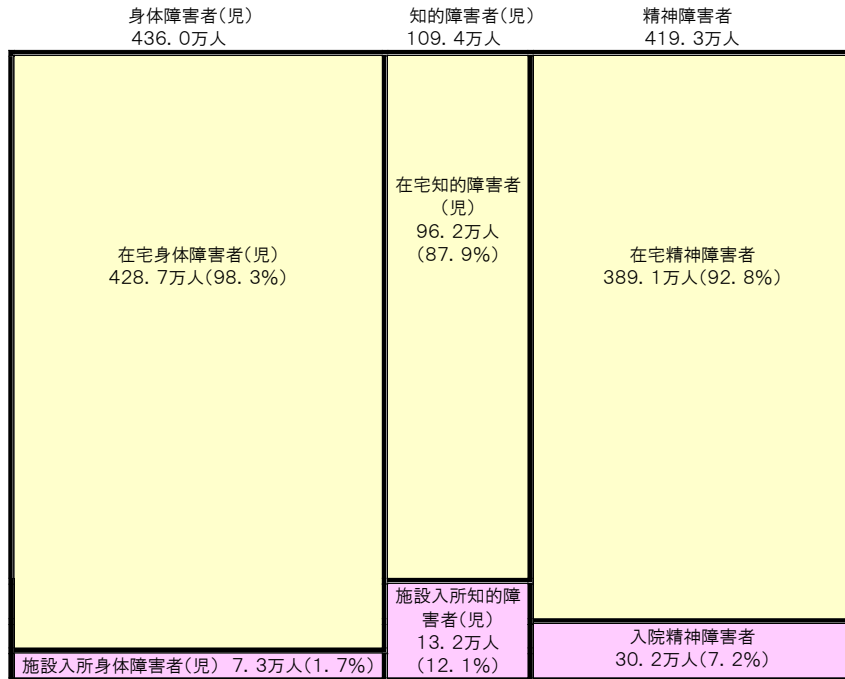
文部科学省総合教育政策局
男女共同参画共生社会学習・安全課
障害者学習支援推進室

障害者の数

- 障害者の総数は964. 7万人であり、人口の約7. 6%に相当。
- そのうち身体障害者は436. 0万人、知的障害者は109. 4万人、精神障害者は419. 3万人。
- 障害者数全体は増加傾向にあり、また、在宅・通所の障害者は増加傾向となっている。

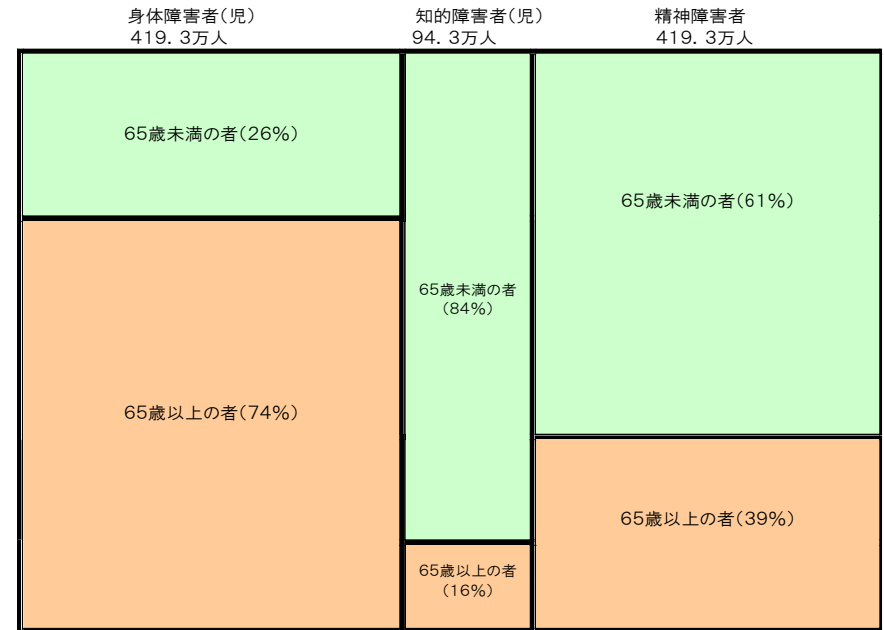
(在宅・施設別)

障害者総数 964. 7万人(人口の約7. 6%)
うち在宅 914. 0万人(94. 7%)
うち施設入所 50. 7万人(5. 3%)



(年齢別)

65歳未満 48%
65歳以上 52%



※身体障害者(児)及び知的障害者(児)数は平成28年(在宅)、平成30年(施設)の調査等、精神障害者数は平成29年の調査による推計。年齢別の身体障害者(児)、知的障害者(児)数は在宅者数(年齢不詳を除く)での算出。
※身体障害者(児)及び知的障害者(児)には高齢者施設に入所している者は含まれていない。
※平成28年の調査における在宅身体障害者(児)及び在宅知的障害者(児)は鳥取県倉吉市を除いた数値である。
※在宅身体障害者(児)及び在宅知的障害者(児)は、障害者手帳所持者数の推計。障害者手帳非所持で、自立支援給付等(精神通院医療を除く。)を受けている者は19.4万人と推計されるが、障害種別が不明のため、上記には含まれていない。
※複数の障害種別に該当する者の重複があることから、障害者の総数は粗い推計である。

就労支援施策の対象となる障害者数／地域の流れ

障害者総数約964万人中、18歳～64歳の在宅者数約377万人

(内訳: 身体101.3万人、知的58.0万人、精神217.2万人)

一般就労への
移行の現状

- ① 特別支援学校から一般企業への就職が約32.0% 就労系障害福祉サービスの利用が約31.4%
- ② 就労系障害福祉サービスから一般企業への就職は、年々増加し、※令和2年は約2.2万人が一般就労への移行を実現

障害福祉サービス

- ・就労移行支援 約 3.4万人
 - ・就労継続支援A型 約 7.2万人
 - ・就労継続支援B型 約26.9万人
- (令和2年3月)

就労系障害福祉サービス
から一般就労への移行

1,288人/ H15	1.0
2,460人/ H18	1.9 倍
3,293人/ H21	2.6 倍
4,403人/ H22	3.4 倍
5,675人/ H23	4.4 倍
7,717人/ H24	6.0 倍
10,001人/ H25	7.8 倍
10,920人/ H26	8.5 倍
11,928人/ H27	9.3 倍
13,517人/ H28	10.5倍
14,845人/ H29	11.5倍
19,963人/ H30	15.5倍
21,919人/ R1	17.0倍

企業等

雇用者数

約57.8万人
(令和2年6月1日)
* 45.5人以上企業

ハローワークからの
紹介就職件数

103,163件
※A型: 19,388件
(令和元年度)

就職

就職 7,204人/年

13,269人/年
(うち就労系障害福祉サービス 7,075人)

特別支援学校

卒業生22,515人(令和2年3月卒)

714人/年

大学・専修学校への進学等

障害者雇用の状況

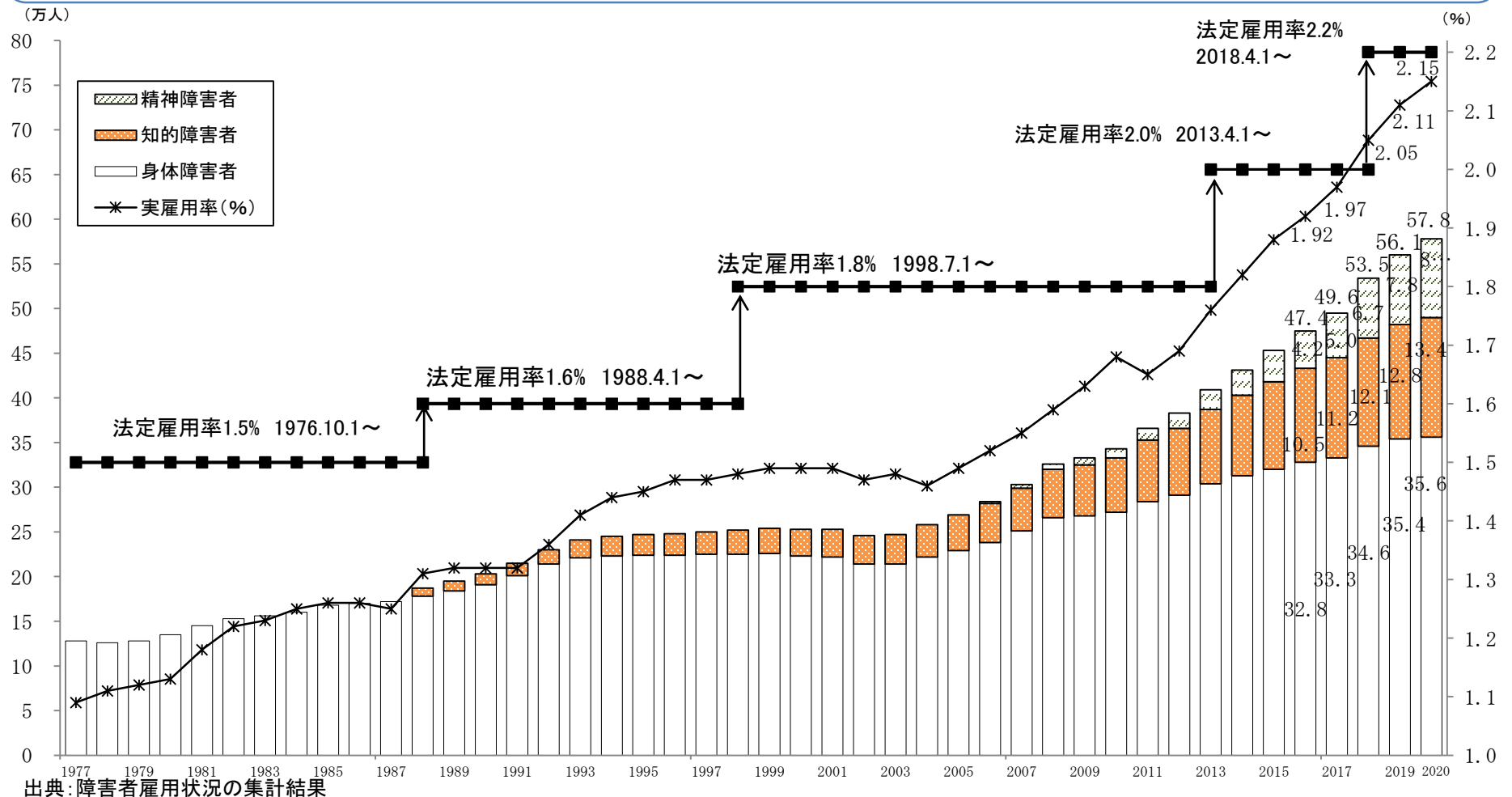
(2020年6月1日現在)

○ 民間企業の雇用状況

雇用者数 57.8万人 (身体障害者35.6万人、知的障害者13.4万人、精神障害者8.8万人)

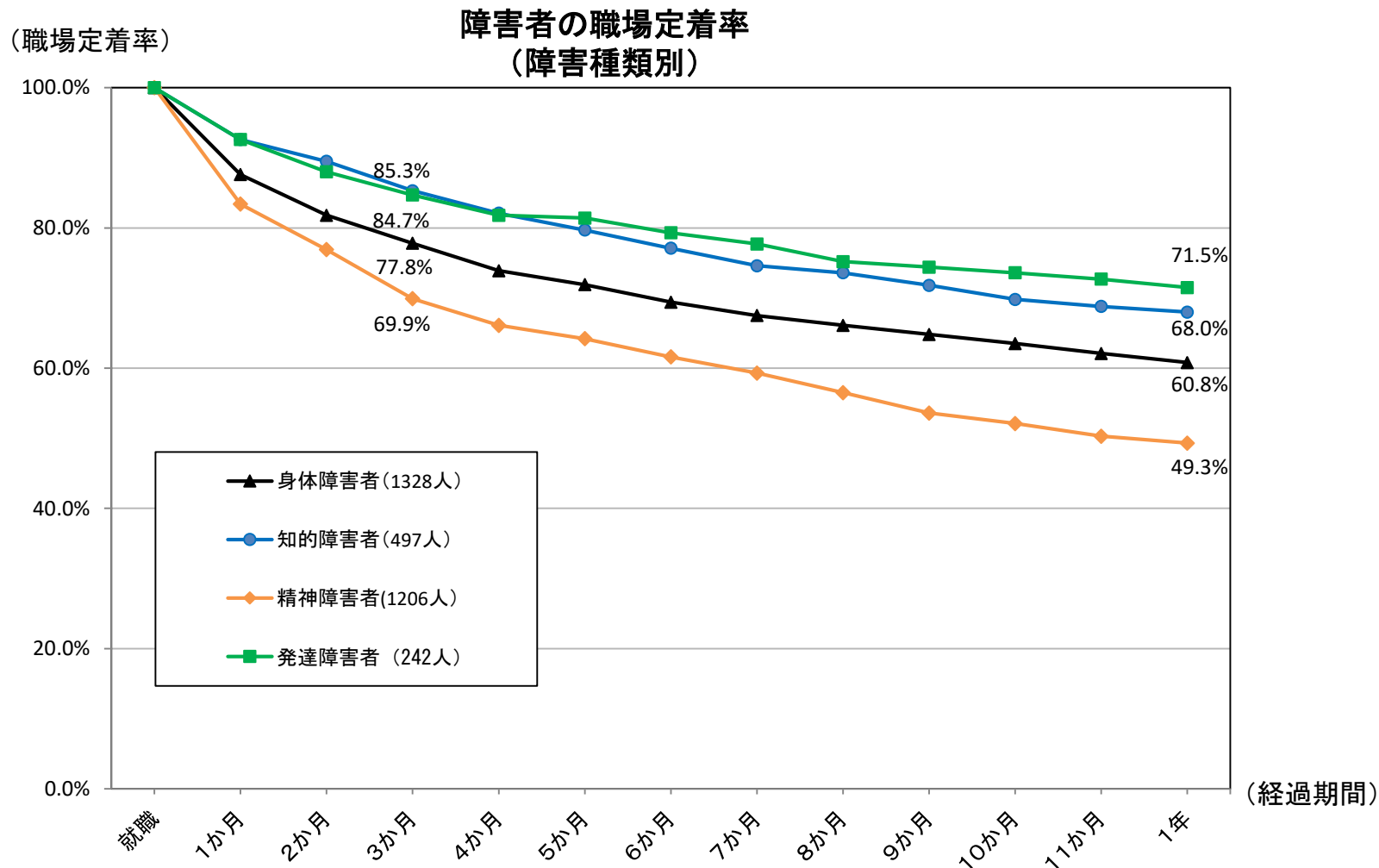
実雇用率 2.15% **法定雇用率達成企業割合 48.6%**

○ **雇用者数は17年連続で過去最高を更新**。障害者雇用は着実に進展。



障害者の職場定着状況について(障害種別)

障害者の職場定着状況について、知的障害や発達障害の場合に比較的安定しているのに対して、特に、精神障害については定着が困難な者が多い状況となっている。



障害者の生涯を通じた学習活動の充実に向けた取組

1. 現状と課題

障害者の学校卒業後の生涯学習の充実が重要

障害者の学校卒業後の状況

特別支援学校高等部卒業生
約22,500人
※うち知的障害者は約19,600人

※令和2年度学校基本調査

進学

進学率は約2%

※知的障害者に限ると約0.4%

就職

(もっと学び続けたい人も含む)
約9割の卒業生は就職(約3割)、
障害福祉サービス等(約6割)
の進路を選択

特に、進学が困難な
知的障害者の学校卒業後の
学びの場が求められている

「学校卒業後には学びや交流の場が
なくなるのではないか」松野大臣(当時)が
特別支援学校訪問時に聞いた不安の声

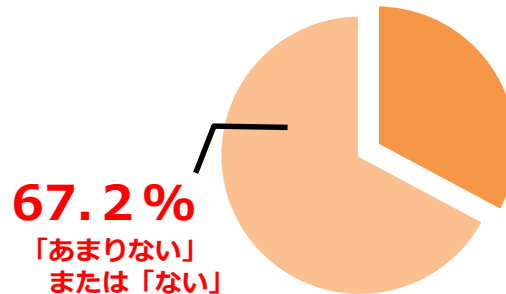
障害当事者へのアンケート結果によれば

障害者の学習機会が
充実されることを重要と思うか？



※平成30年度「学校卒業後の障害者が学習活動に参加する際の阻害要因・促進要因等に関する調査研究」

身近に学びの場やプログラムが
あると思うか？



2. 社会情勢の変化

平成26年「障害者の権利に関する条約」の批准
→障害者の生涯学習機会の確保が明記

平成28年「障害者差別解消法」の施行
→国・自治体の合理的配慮の義務化

平成29年 文部科学大臣メッセージ(当時松野大臣)
「特別支援教育の生涯学習化に向けて」

平成29年「障害者学習支援推進室」設置
→障害者の生涯学習に係る推進体制を構築

有識者会議最終報告のポイント

「障害者の生涯学習の推進方策について

—誰もが、障害の有無にかかわらず共に学び、生きる共生社会を目指して—（報告）」

学校卒業後の障害者が学ぶ場が十分でない

目指す方向性

- 誰もが、障害の有無にかかわらず
共に学び、生きる共生社会の実現
- 障害者の主体的な学びの重視、個性や
得意分野を生かした社会参加の実現

取り組むべき施策

- 国、地方公共団体、特別支援学校、大学、民間団体が
役割分担し、多様な学びの場づくりを推進
- 教育、福祉、労働等の分野の取組と連携の強化が重要

表「障害者の生涯学習」を支える実践の多様性

※神戸大学・津田英二教授による整理

(「障害者の生涯学習支援推進の考え方」『社会教育』2018年12月号、日本青年館より)

公民館等における実践	障害者青年学級など障害者を主な対象とする事業
	一般の学級・講座等への障害者の参加(合理的配慮)
	社会教育関係団体やサークルへの障害者の参加
その他の社会教育施設における実践	博物館における合理的配慮
	図書館における合理的配慮、点字図書等の提供
	障害者スポーツセンターの設置
	体育施設における合理的配慮、アダプテッド・スポーツ推進
学校に関連する実践	特別支援学校等の同窓会活動
	大学の公開講座等への障害者の参加(合理的配慮)
	大学等におけるオープンカレッジ、障害者対象の公開講座等
	継続教育を実施する高等教育機関における障害者の受入
社会福祉に関連する実践	障害者支援事業所における文化芸術活動、スポーツ活動、学習活動
	自立生活センター等における自立生活プログラム
	学習活動の参加に不可欠な障害者福祉サービスの提供
	社会福祉協議会の福祉教育活動等
就労支援に関連する実践	就労支援施設における作業としてのアート活動
	一般就労をする障害者の生きがいづくりのプログラム
その他の実践	親の会や家族会などによる学習活動
	障害当事者グループの学習活動
	NPOなどによる文化芸術活動、スポーツ活動、学習活動
	営利事業としての障害者対象の教室等
	民間の学習機会への障害者の参加(合理的配慮)
	医療機関における学習活動、学習支援活動



どのような表彰ですか？

障害者の生涯を通じた多様な学習を支える活動を行う個人又は団体について、活動内容が優れているものを文部科学大臣が表彰します。

優れている活動を事例集として公表し、障害当事者や地方公共団体等に広く周知することで、障害者の生涯学習支援の推進を図ります。

【表彰式の様子（令和2年度）】

「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣表彰



「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣表彰は平成29年度から実施しており、これまで265件の個人・団体が表彰されています。

都道府県・指定都市、大学、文部科学省の関係団体等から推薦された候補者について、審査委員会の審査を経て表彰対象者を選定しています。

過去の表彰の様子、事例集はこちら

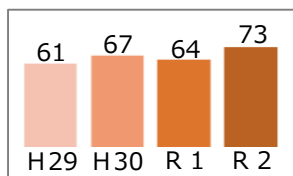


学習、スポーツ、文化芸術、情報保障など
活動内容は多岐にわたる



4年間で…

265件

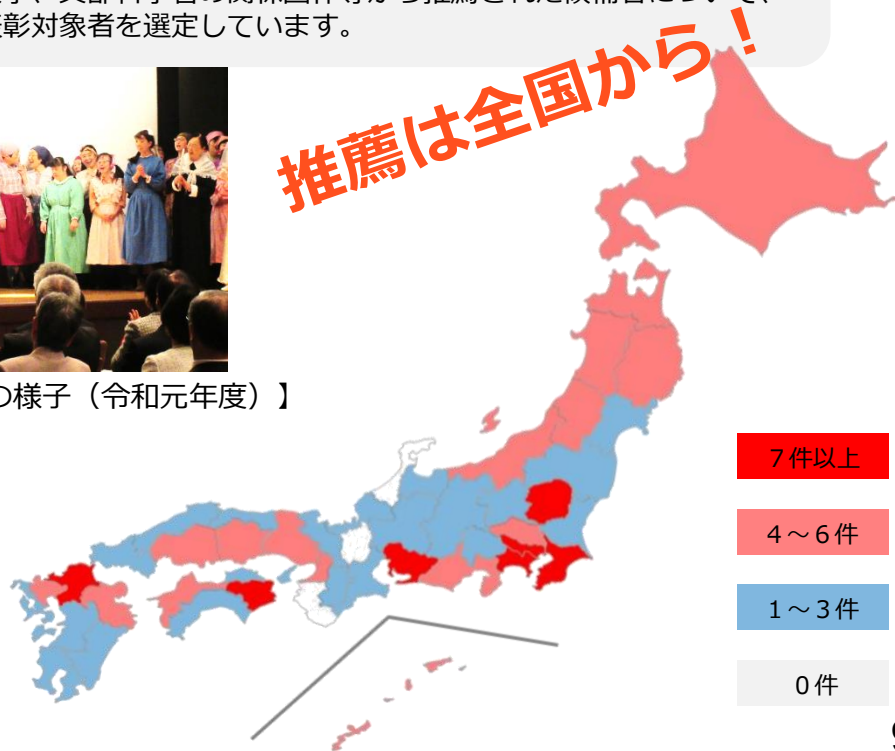


【表彰式での**成果発表**の様子（令和元年度）】



学 習	54
ス ポ ー ツ	62
文化芸術	52
情報保障	7
分野混合	90

推薦は全国から！



障害者の
生涯学習支援活動とは？

【年度別・分野別の表彰件数】

学習



文部科学省

調理実習



静岡県焼津市

iPhone活用研修会



広島大学

茶道



兵庫県加古郡播磨町

訪問型学習支援



愛媛大学

清掃活動



岡山県岡山市

ペン習字教室



京都府綾部市

スポーツ



文部科学省

福祉フェスティバルでのダンス



群馬県吾妻郡嬬恋村

バリアフリーサイクリング



沖縄県北部地域市町村

グラウンド・ゴルフ教室



鹿児島県薩摩川内市

フロアホッケー



東京都葛飾区

パラスポーツ体験



東京都港区

フォークダンス



埼玉県川口市

自由に交流できる居場所での制作



秋田県秋田市

青空書道教室



青森県八戸市

音楽祭に向けた練習



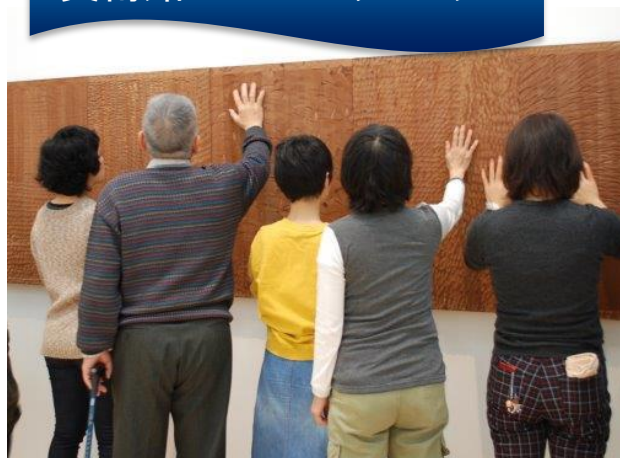
熊本県熊本市

手話コンサート



鹿児島県霧島市

美術館でのワークショップ



東京都八王子市

チャレンジド・ミュージカル



千葉県市川市

対面朗読



東京都東村山市

対面音訳



福井県福井市

点訳活動



長野県長野市

音訳活動



熊本県合志市

点訳活動



栃木県宇都宮市

音訳活動



愛知県岩倉市

趣 旨

平成26年の障害者権利条約の批准や平成28年の障害者差別解消法の施行等も踏まえ、**学校卒業後の障害者が生涯を通じて学び続けられる社会、共に学び、生きる共生社会の実現に向けた取組を推進**することが急務。

学校卒業後の障害者の社会参加・活躍を推進するため、これまでの民間団体主体の実践研究の成果の活用・横展開を図り、**都道府県を中心とした地域コンソーシアム形成**による持続可能な生涯学習支援体制を構築し、併せて、新たに**市区町村の社会教育施設等を主な実施主体とした生涯学習プログラム**を開発・実施し、**多様な学びの場の拡充**に取り組む。そのうえで、実践研究事業等の成果の普及・活用や実践交流等のための**ブロック別コンファレンス、障害理解促進に向けた啓発フォーラム等**を実施する。

さらに、**今般のコロナ禍**において、学校卒業後の障害者が健常者と同様の学びの機会を得るために、**よりきめ細かな支援が必要**。

事業内容

1. 地域における持続可能な学びの支援に関する実践研究〔85百万円〕

(1) 地域コンソーシアムによる障害者の生涯学習支援体制の構築〔43百万〕

➤ **都道府県と大学等との連携による体制整備・人材育成 (5箇所)**

◆ **都道府県（政令市）が中心**となり、**大学や特別支援学校、社会福祉法人、地元企業等**が参画する障害者の生涯学習のための「**地域コンソーシアム**」を形成。

◆ **学びの場の拡大**に向けて**市区町村職員向けの人材育成研修モデル**を開発・実証。

(1)都道府県レベルのネットワーク構築 (2)市区町村レベルの学習機会拡充

(2) 地域連携による障害者の生涯学習機会の拡大促進〔38百万円〕 ※新規

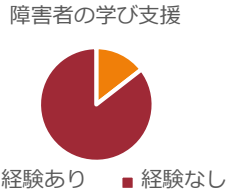
➤ **市区町村による障害者を包摂する学習プログラムの開発 (25箇所)**

◆ 障害者の生涯学習のノウハウが乏しい**市区町村**が、実績のある**民間団体等と組織的に連携**し、主に**公民館等の社会教育施設における**、障害当事者のニーズや地域資源を踏まえた**新たな「生涯学習プログラム」**を開発・実施。その成果の普及・活用を目指す。

※現状・課題：現在の本取組の中心は民間団体が中心。H30年度調査では、**障害者の学びの支援経験のない公民館等は85%超**（右記グラフ参照）。

◆ **取組の周知・普及・連絡協議会の開催〔4百万円〕**

地域コンソーシアム等に取り組む**地方公共団体等**で構成される**連絡協議会を開催**する。



2. 生涯学習を通じた共生社会の実現に関する調査研究〔3百万円〕

障害者が一般的な学習活動に参加する際の阻害要因や促進要因を踏まえ、**読書バリアフリー法施行後の視覚障害者等の読書環境の整備に向けた課題把握や、コロナ禍における障害者の生涯学習の実態に関する調査研究**を実施。

成果や課題を共有

3. 障害者の学びに関する普及・啓発や人材育成に向けた取組〔28百万円〕

◆ 社会教育と特別支援教育、障害者福祉の各分野における**障害者の生涯学習推進の人材育成に関する有識者検討会を設置**。

◆ 実践研究事業等により開発された「生涯学習プログラム」の成果普及や実践交流等を行うため、**全国をブロックに分けてコンファレンス（実践交流会）を実施**。

◆ 障害の理解促進や共生社会実現に向けて障害当事者の参画による**障害理解啓発フォーラム**の実施。

※写真：「超福祉の学校～障害をこえて共に学び、つくる共生社会フォーラム～」



期待される成果

- ◎各地域で障害のある人の**社会参加と活躍を推進**
- ◎地域における**支援人材の増加と障害への理解を増進**

目指す社会 ◎障害のあるなしに関わらず生きやすい**共生社会**

令和3年度「地域における持続可能な学びの支援に関する実践研究」 採択団体地域分布

(ア)地域コンソーシアムによる
障害者の生涯学習支援体制の構築

- ・北海道教育委員会
- ・秋田県教育委員会
- ・兵庫県教育委員会
- ・宮崎県

計4件(地図内：◎)

(イ)地域連携による障害者の生涯学習機会の拡大促進

- | | |
|----------|----|
| 北海道・東北地方 | 5件 |
| 関東甲信越地方 | 6件 |
| 東海・北陸地方 | 2件 |
| 近畿地方 | 3件 |
| 中国・四国地方 | 1件 |
| 九州・沖縄地方 | 1件 |

計18件

※括弧内は連携自治体

- ・特定非営利活動法人杏（瀬戸市）
- ・NPO法人春日井子どもサポートKIDS COLOR（春日井市）

・兵庫県教育委員会

- ・公益財団法人こうべ市民福祉振興協会（神戸市）

- ・福岡市手をつなぐ育成会保護者会（福岡市）

・宮崎県

・北海道岩見沢市

・秋田県大館市

・秋田県教育委員会

・北海道教育委員会

・株式会社日経BP（陸前高田市）

- ・特定非営利活動法人ポラリス（山元町）
- ・特定非営利活動法人
エイブル・アート・ジャパン（仙台市）

・東京都国分寺市教育委員会

・日本社会事業大学（清瀬市）

・NPO法人障がい児・者の学びを保障する会（練馬区）

・一般社団法人みんなの大学校（国分寺市）

- ・NPO法人ピープルデザイン研究所（川崎市）
- ・神奈川県相模原市

・天理大学（天理市）

・社会福祉法人一麦会（紀の川市）

- ・国立大学法人愛媛大学（愛媛県／松山市／久万高原町）



共に学び ひろがる世界 ～障害者×生涯学習～

学校卒業後の
障害者の学びとは？

《趣旨・目的》

文部科学省が実施している「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」の取組事例を動画として紹介し、各種実践モデルの広域普及・地方公共団体が主体となり民間団体等と連携した障害者の学びの場拡充を目指す。

《視聴ターゲット》

地方公共団体の社会教育・生涯学習・特別支援教育・障害者福祉担当者など

《どんな動画？》

地域で障害者の生涯学習を実践する2つの事例にスポットを当て、取組の様子を紹介。学びの場に参加する障害当事者へのインタビューから、“学び”によって広がる世界、障害者の生涯学習実践のヒントを約13分の動画に凝縮。

《動画メニュー》

- ・金澤翔子さん（書家・文部科学省スペシャルサポート大使）のメッセージ
- ・オンラインを活用した学びの実践（一般社団法人みんなの大学校）
- ・当事者からひろがる学び（NPO法人障がい児・者の学びを保障する会）
- ・障害者の生涯学習を担う行政職員に向けて（文部科学省障害者学習支援推進室）

障害者の生涯学習
取組を始めるヒント満載

動画の視聴は
こちらから→



https://youtu.be/5bXcg_sXFd0

金澤翔子さんからのスペシャルメッセージ

やっぱり学ぶことが好きなんです

学びで自分の世界がひろがりました

共に学び ひろがる世界

～障害者×生涯学習～



みんなの大学校
Minna no Daigaku
-学び、て君が花開く-



NPO 法人
障がい児・者の
学びを保障する会



障害者の生涯を通じた学習活動の充実に向けて

障害者本人の意識、ニーズ

●平成30年度 障害者本人の意識等調査

- ・「一緒に学習する友人，仲間がいない」
→71.7%
- ・「学ぼうとする障害者に対する
社会の理解がない」→66.3%
- ・「知りたいことを学ぶための場や
学習プログラムが身近にある」→32.8%

有識者会議「障害者の生涯学習の推進方策について
—誰もが、障害の有無にかかわらず共に学び、生きる共生社会を目指して—（報告）」より

ボランティアをめぐる課題

- ～課題としては、公民館や生涯学習センター等で行われている障害者青年学級での学習を希望する障害者等が増加する一方で、障害の多様化や参加者の高齢化が進むとともに、スタッフ、ボランティアが不足している～（21頁）
- 共生社会の実現に向け、障害の有無にかかわらず、共に交流し学び合う環境を整備することが重要～
- ～共に学ぶ場づくりに向けて、生涯学習分野における「環境」、「意識」、「情報」など、様々な面でのバリアを解消していくことが必要～（25-26頁）
- 福祉教育・ボランティア学習等を通じた、地域における障害に関する理解促進を図ることが望まれる（29頁）